

ボイラーについて

○ボイラー

ボイラーとは、燃料を燃焼させることで発生させた熱を、水等に吸収させて水蒸気、温水等を作り出す装置のこと。

大気汚染防止法では、燃料を燃焼させることによって生じる排出ガスに規制がかかり、施設の規模要件は、これまで伝熱面積や燃焼能力によって規定されていた。

○伝熱面積

伝熱面積とは、熱交換器において、実際に熱の授受がある面の広さをいう。

ボイラーにおいては、燃焼室で発生させた熱が、水等の媒体へ受け渡しされる部分が該当する。

○燃焼能力

燃焼能力とは、燃焼室における、単位時間当たりの燃料使用量をいう。

大気汚染防止法では、各燃料種別の使用量を重油における使用量に換算して用いられている。

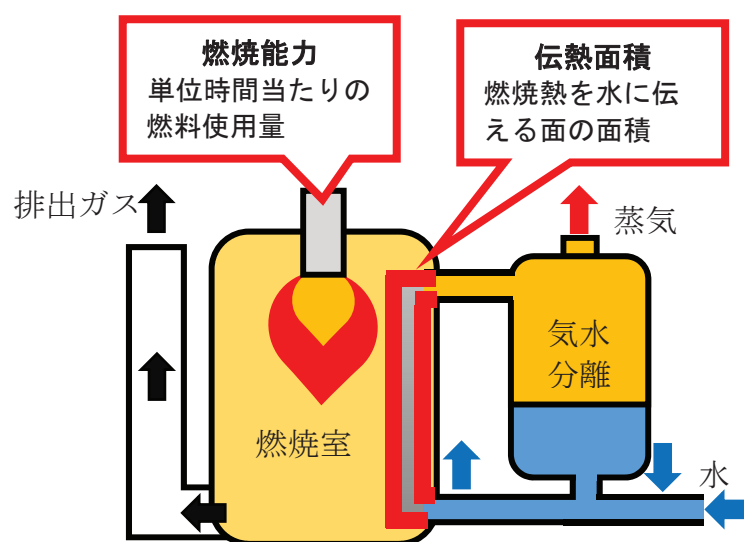


図 ボイラーの仕組み（模式図）